

ふるさとよかわ第16号

吉川の遺跡

～発掘調査の記録～

2005年3月

兵庫県吉川町教育委員会

刊行にあたって

いつの時代でも、時の流れに目が移り、局部的にしか事物が見えないことが常です。「歴史は繰り返す」という言葉があるように、いろいろな場所で、いろいろな時代に現在と同じ情況が表れていることが目にできます。先人達は全知全能を駆使して善処できたり、時には軽率に扱ったため大打撃を蒙ったりしています。歴史は最高の教科書です。眞の学びは事実以外にありません。吉川の遺跡は吉川を学ぶ最高の教科書です。ここに吉川の遺跡発掘調査の記録としてお届けします。

2005年3月

吉川町教育委員会
教育長 長谷川義雄

目 次

1. 私たちの吉川町	2
①はじめに	2
②歴 史	2
2. 調査にいたる経過	5
3. 発掘調査の方法	6
4. 調査の結果	7
①稲田一野々前遺跡	7
②宮脇城居館	8
③前田遺跡	9
④金会遺跡	9
⑤大畑遺跡	10
⑥上松古墳群	11
⑦長谷遺跡	12
⑧実楽遺跡	13
⑨実楽 2号墳	14
⑩実楽 1号墳	15
⑪古市 1号墳	15
⑫上中遺跡	16
⑬古川遺跡	16
⑭古川城	17
⑮有安古墳(2号墳)	18
⑯青龍池散布地	19
⑰田谷墳墓	19
5. お世話になりました。	20
6. 編集後記	21

例 言

1. 本書は、1970年～2003年までに吉川町で実施した埋蔵文化財発掘調査の概要を記録したものです。
2. 発掘調査及び本書編集作業は、吉川町教育委員会生涯学習課 岛中剛が行いました。
3. 本書に係る資料は、吉川町教育委員会が保管しています。
4. 本書掲載の遺跡は発掘調査を実施した遺跡であり、吉川町のすべての遺跡ではありません。くわしくは、ふるさとよかわ第8号「古川城」、同13号「有安古墳」を参照してください。
5. 発掘調査、遺物整理作業をはじめ、開発事業関係者、土地所有者など大変多くの方々にご協力をいただきました。ありがとうございました。
6. 本書の写真は、カラーとモノクロを使用しています。

1. 私たちの吉川町

① はじめに

兵庫県美濃郡吉川町は、播磨地方の東部にあり、北から東は三田市、東から南は神戸市北区、西は三木市・加東郡東条町に接しています。東西約8km、南北約12km、面積は56.05km²あります。

町の南東部の山の谷間をぬって北に流れる吉川川、北西部を南に流れる北谷川は、ほぼ中央部を西に流れる美濃川にそいで、一本となり、三木市を通り加古川の本流に流れ込んでいます。吉川町の地形は、ほぼこの三本の川が作り出す小規模な河岸段丘、あるいは、それに沿った幅の狭い氾濫源が平地となり、発達していったものと考えられます。地質は、第三紀中新世神戸層群吉川累層の礫岩、砂岩で成り立っています。吉川町の気候は、瀬戸内海型といわれる夏は南、冬は北の季節風が吹き、おおむね温暖となっています。

② 歴史

吉川町のはほとんどは、ほ場整備事業、民間開発としてゴルフ場、住宅団地、資材倉庫などの大規模な開発が行われ、それに伴い埋蔵文化財分布調査、発掘調査を実施してきました。ここでは、その成果を中心に説明したいと思います。

吉川町では、先土器時代、縄文時代の遺跡については、確認されておらず、弥生時代よりはじめます。北谷川下流の実楽遺跡(8)、町西部の長谷遺跡(7)などで、多量の土器や住居跡が出土し、弥生時代中、後期の集落跡が見つかっています。これらの遺跡は、いったん途絶えますが、古墳時代後期になって、再び出現します。古墳は、これらの集落に伴い、上松5号墳(6)の上松古墳群、古市1号墳(11)の古市古墳群、有安2号墳(15)の有安古墳群、実楽1号墳(10)、2号墳(9)の実楽古墳群等があります。これらの古墳群は、いずれも直径十数メートルの円墳が十基足らず集まっていたと考えられ、埋葬施設は、横穴式石室か木棺をそのまま埋めるものだったと思われます。これらの古墳群からは、須恵器、鉄刀、刀子、馬具、金環、勾玉などの出土品が見つかっています。

弥生時代、古墳時代の遺跡は、西部に集中しており、吉川町は古くは、西から発達していましたと考えられます。しかし、残念なことに、これらの古墳群は、いずれも近、現代の開墾に伴い、ほとんどが消滅し、吉川町では、有安2号墳、実楽2号墳、上松1号墳等数基が存在するのみとなっています。

古代律令制下での吉川は、播磨国美濃郡に属し、「和名抄」にみえる吉川郷に比定されています。「播磨国風土記」にも吉川里が見え、吉川の大刀自神が当地に鎮座したことによる地名といわれています。天平宝字6年(762年)頃と推定される造東大寺司解案には、同郡横川郷に額田部真島の郷戸があったことが見えています。(正倉院文書)

また、延歴8年(789年)同郡の大領鍛首広富が稻6万束を献じて外從五位下を教与さ

れています。（続日本紀）しかし、いずれもこれらに関連する遺構や出土品等は見つかっていません。

中世になると吉川は、皇室の直轄の荘園であったといわれ、吉河上莊、下莊と大畠莊があった。発掘調査により、大畠遺跡（5）で、大規模な中世の建物跡が検出されましたが、大畠莊との関連については、わかりません。また、他の中世遺跡として、稲田（1）、金会（4, 4-2）、前田（3）遺跡等があり、2間3間程度の掘立柱建物をもつ小規模な集落跡が見つかっています。

当時、有力な寺院も多数あり、県指定重要文化財の古文書等を所蔵する法光寺をはじめ、福吉の東光寺、神社では、前田の天津神社、稲田の若宮神社、毘沙門の歓喜院聖天堂、富岡の稻荷神社などいずれも当時の建築技法を知る上で貴重な建物で、ほとんどが国県指定の重要な文化財となっています。おそらく、吉川谷の文化がきらびやかに輝いたのは、まさにこの頃であったといえます。

戦国時代になると、多くの土豪たちが町内のあちこちの山の上や田んぼに山城や居館跡を築いています。東吉川地区では、当時、もっとも勢力をもったと思われる藤田氏が、摂津と播磨の国境を監視する毘沙門城を本拠地として、商業が発達した稲田の竹原村の利権を押さえるために宮脇城居館（2）を築きました。また市野瀬城には、永天寺を厚く保護したといわれる藤田玄門、北谷地区では、古川城（14）の井口備前守時重、脇田城の脇田小次郎、荒川城の藤田登之助、中吉川地区では、渡瀬城、有安城の渡瀬好光、好勝、西畠城の中西兵助など、吉川でさまざまな武将たちが群雄割拠していた時代があったようですが、天正8年秀吉に攻められ、三木の別所氏が滅亡すると同時にこれらの武将も滅んでしまいました。

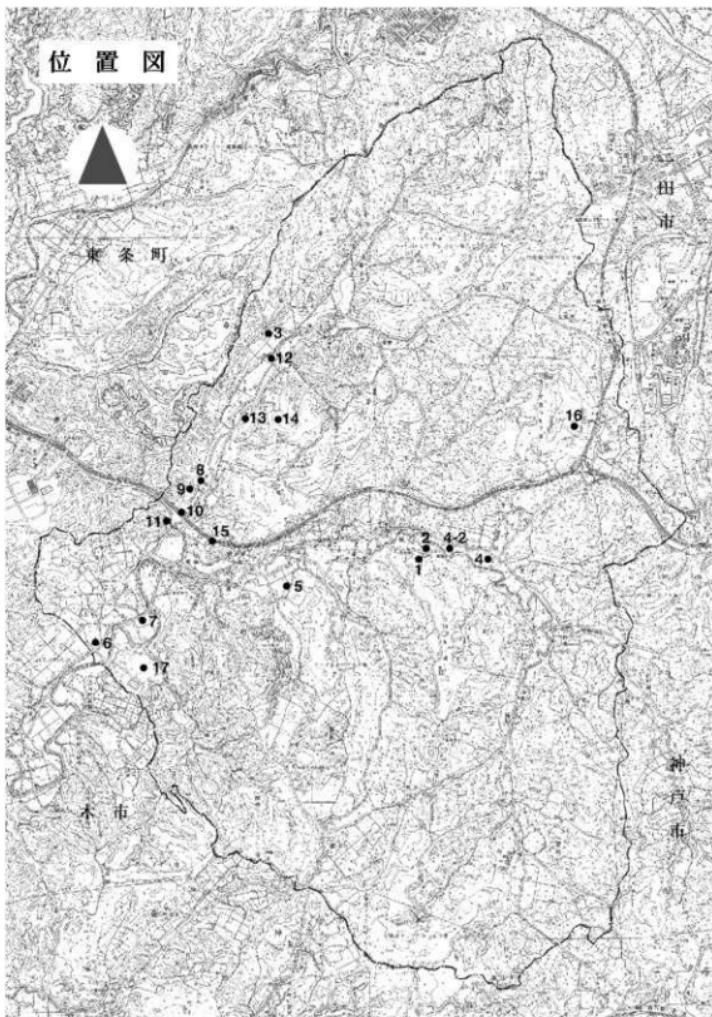
近世になると、関ヶ原の戦い以後、姫路藩、明石藩その後は、幕府領、旗本久留氏領、下野国壬生藩領、三草藩領、下総国古河藩領、上総国鶴舞藩領などに分れ、分割支配が進みました。

明治22年市制町村制施行により、奥吉川村（東吉川地域）、中吉川村（中吉川地域）、北谷村（上吉川地域）となり、昭和28年町村合併促進法施行、同30年3ヶ村が合併し、現在の吉川町が成立しましたが、現在、「平成の大合併」として協議が進められ、平成17年10月（2005年）南西部の三木市に編入合併することとなっています。

参考文献

- ・『吉川町誌』 1970 吉川町誌刊行委員会
- ・「地誌編・美濃郡吉川町」『兵庫県地名大辞典』森下賤男 1988 角川書店
- ・『ふるさとよかわ 第1～14号』 1985～2009 吉川町教育委員会

位 置 図



1. 稲田一野々前遺跡 2. 宮脇城居館 3. 前田遺跡 4. 金会遺跡
4-2. 金会-瀧ノ瀬遺跡 5. 大畠遺跡 6. 上松古墳群 7. 長谷遺跡 8. 実楽遺跡
9. 実楽2号墳 10. 実楽1号墳 11. 古市1号墳 12. 上中遺跡 13. 古川遺跡
14. 古川城 15. 有安古墳(2号墳) 16. 青龍池散布地 17. 田谷墳墓

2. 調査にいたる経過

昭和58年（1983）頃より吉川町では、農産物の生産を高めるため田んぼや畑、池や水路を広く整えたりする土地改良事業、「は場整備」が各地で行われました。その面積は、600haにも及びました。また、それとほぼ同じ時期に以前より造られていたゴルフ場に加えて、さらに山林に計画され約1,240haの面積が開発されることとなりました。

このような大規模な土地の造成工事が行われることを受け、吉川町教育委員会では文化財保護法に基づき、工事に先立って土地の下に埋もれている文化財を保護することを目的とした埋蔵文化財の分布調査、発掘調査を実施しました。さらに、その成果を広く活用するため、文化財資料調査報告集「ふるさとよかわ」をはじめとして、文化財だよりやパンフレットを発行したり、町内の文化財の案内や学校への体験講座を実施しました。また、平成9年には吉川町文化財保護条例を制定し、法律的な整備も整いました。

今後は、これらの資料をもとに周辺地域の様子を参考にしながら、吉川町の歴史を考えたり、体験講座などを通じて文化財の大切さを知り、わが町の文化財を未来に守り伝えていくことが重要となっています。

調査一覧

番号	遺跡名	地区	見つかったもの	時代	調査年
1	稲田一野々前遺跡	稲田	建物あと	中世	1988
2	宮脇城居館	タ	武将の館あと	タ	タ
3	前田遺跡	前田	建物あと	タ	タ
4	金会遺跡	金会	建物あと	タ	タ
4-2	金会-滝ノ瀬遺跡	タ	タ	タ	1989
5	大畠遺跡	大畠	建物あと	タ	タ
6	上松5号墳	上松	古墳	古墳後	1991~2
7	長谷遺跡	長谷	竪穴式住居あと	弥生末	1990
8	実楽遺跡	実楽	竪穴式住居あと	タ中末	1991
9	タ2号墳	タ	古墳（周溝調査）	古墳後	タ
10	タ1号墳	タ	古墳	タ	1971
11	古市1号墳	古市	古墳	タ	?
12	上中遺跡	上中	土器散布	古墳、中世	1991
13	古川遺跡	古川	土器散布	中世	1994
14	古川城	タ	山城あと	タ	1996
15	有安2号墳	有安	古墳	古墳後	2003
16	青龍池散布地	吉安	土器散布	中世	1986
17	田谷墳墓	田谷	墓あと	タ	1999

3. 発掘調査の方法

調査をはじめます。



☆遺跡のある場所について調べます。



☆現地を歩き、土器のかけらがない
が見ます。



☆掘りながら平ら
に削っていきます。



☆こういうところで見つかり
ます。



☆住居あの土を
さらに掘っていく
と…。



☆土器が出ました！



☆弥生時代の住居跡が見つかりました。



☆図面に記録します。



☆写真を写します。

現地の調査を終わります。

4. 調査の結果

① 稲田一野々前遺跡



調査の場所（南より）



さあ、調査をはじめよう！



見つかった建物あと（南より）



柱がそのまま残っていました。



柱がぐらつかないように石が入れてありました。

稲田一野々前遺跡は、宮脇城居館の南西にありました。遺構は、周囲を溝や浅い穴などで取り囲まれた1~2棟の掘立柱建物あとが見つかりました。また、たくさんの土器のかけらや焼けた土や炭なども見つかり、土器の中には「房」と墨書きがあるものもありました。以上のことから、中世鎌倉時代頃の屋敷あとではないかと考えられます。

② 宮脇城居館



堀の様子（南より）



堀の発掘



土壘のなごり



土壘のなごり



見つかった焼石と焼土

稲田地区には藤田河内守という武将の一族がおり、宮脇城居館はその居城であったと伝えられています。また、三木合戦の別所氏の敗北により、館に火をつけて自害したとも伝えられています。調査の結果、幅5.5メートル、深さ2メートルの堀が館の南側から見つかりました。また、館の中では焼土をかぶった石や陶磁器、丹波焼の破片などが見つかりました。

③ 前田遺跡

県道広野・東条線の西側の水田面で田んぼの各所に一辺2メートル幅のグリッドを何箇所か設定し、発掘調査を行いました。部分的でしたが、柱穴や溝あとが見つかり建物あとが見つかりました。また、鎌倉時代頃の土器の破片も見つかりました。

また、平成4年には、上吉川幼稚園（現吉川学童保育所）の北側の水田面も発掘調査を実施しましたが、遺跡は見つかりませんでした。



溝のあと



柱の木がそのまま残っています。

④ 金会遺跡

県道西脇三田線の南側で、掘立柱建物あとが見つかりました。また、鎌倉時代頃の土器片も見つかりました。

瀧ノ瀬遺跡は、金会字瀧ノ瀬にあり、2間×2間の建物あとが見つかりました。また、溝や火を焚いたあとがあり、平安時代末頃の土器片が見つかりました。



金会遺跡の建物あと



瀧ノ瀬遺跡の建物あと



柱の穴からは土器のかけらが見つかりました。

⑤ 大畠遺跡



見つかった建物あと（南区画）



たくさんのかやや石（北区画）



大きな穴を掘っていきます。

石が集められた穴



調査面積は 1,000 m²にもおよびました。その結果、約390箇所の柱あとが見つかりました。木の化石や丹波焼片などを含んだ石がたくさん集められた穴や、多数の土器片も見つかり、かなり大きな屋敷あとであったと思われます。

中世「大畠の庄」といわれている、莊園遺跡の関係も考えられますが、はつきりしたことはわかっていません。



柱あとから見つかった土器

⑥ 上松古墳群



1号墳の測量



田んぼの畦に石がありました。



掘って見ると石室が出てきました。



調査の様子



耳飾りと土器

上松地区の田んぼには古墳と思われる土を盛り上げた場所が何箇所か見られました。発掘調査は古墳の周りにめぐらされている周溝の発見につとめましたが、見つかりませんでした。5号墳は、田んぼの畦に石があり、掘ってみると横穴式石室が見つかりました。石室の中からは、土器、耳飾、鉄の刀が見つかりました。



鉄刀

⑦ 長谷遺跡

美義川が大きく蛇行する北岸にあり、古墳時代後期の穴からはたくさんの中器が見つかりました。また、それより古い弥生時代末頃の方形の竪穴住居あと（1辺の長さ5.5メートル）が見つかりました。住居あとからは、完全な形の土器や粘土の塊、火を焚いた炉あとなどが見つかりました。古墳時代の遺構については、上松古墳群との関係が注目されます。



見つかった住居のあと



空からの遺跡の様子



住居に何人
寝られるで
しょう。



火を焚いた炉あとと、見つかった土器



土を少しずつ
跡していく
きます。
慎重に！
慎重に！



古墳時代の土器が
見つかった穴

⑧ 実楽遺跡



調査本部 !? の設置



見つかった住居のあと



暑いので日除けをしながらの調査



2号墳のトレ
ンチ調査



見つかった手焼型土器

トレンチ調査により実楽2号墳の周溝の発見につとめましたが、見つかりませんでした。2号墳の北方の田んぼより、古墳時代後期の穴や弥生時代末頃の住居あとや柱あと、溝などが見つかりました。また、大変珍しい「手焼型土器」の破片が見つかりました。

⑨ 実楽2号墳

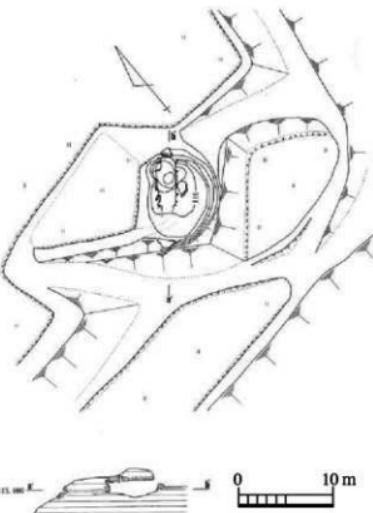
実楽2号墳墳丘測量図

測量調査

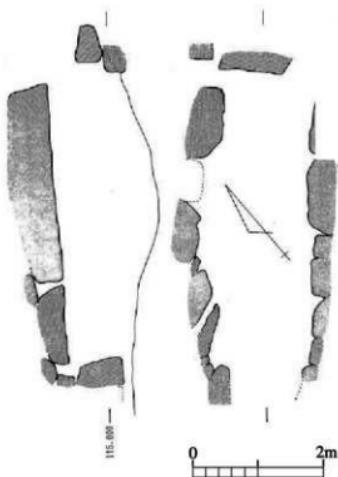
(1997.5 京都花園大学考古学研究室実施)

実楽2号墳は、吉川町実楽の畠の中にあります。古墳の形は円墳で、直径12メートル、高さ3メートルくらいの大きさだったと思われます。埋葬施設は、横穴式石室と呼ばれる、全長8.2メートル、高さは石室の奥の壁が壊れ、たくさんの土が流れ込んでわかりにくいですが、2メートルくらいはあったと思われます。石室の天井には長さ2.8メートルの大きな石が使われていたり、入り口には石室をふさぐための石が残っていたりしています。2号墳周辺では、発掘調査により古墳時代のムラが見つかっており、2号墳に埋葬された人は、それらの人たちをまとめていくリーダーであったと思われます。

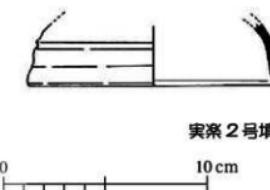
古墳の作られた時代は、周りから出土した土器や石室の形から6世紀の後半くらいと考えられます。



実楽2号墳石室実測図



測量調査風景



実楽2号墳表掲遺物

(実測図はすべて、京都花園大学考古学研究室『古墳測量調査集成Ⅰ』1998.12による

⑩ 実楽1号墳

昭和45年（1970）中国自動車道の建設に伴い兵庫県教育委員会による発掘調査が行われました。吉川町はじまって以来の本格的な調査となりました。あまり、原形をとどめてないものの、1号墳は直径14メートルくらいの円墳で、埋葬施設は横穴式石室で石室内からは、たくさんの完全な形をした土器や勾玉、馬具、鉄ぞく、刀子、木棺の飾り金具などが見つかりました。古墳は横穴式石室の可能性が高いものの、石があまり見つかっておらず、他の埋葬施設であった可能性もあります。現在は、中国道の道の下に保存されています。



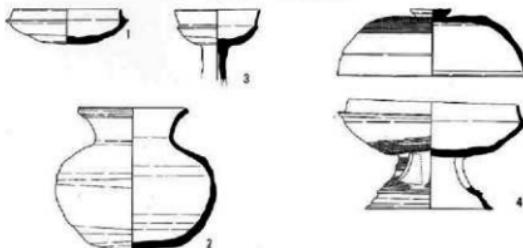
調査の様子（実楽 汗田雅司氏撮影）

⑪ 古市1号墳

吉川町誌によると古市古墳群は3基の古墳があつたと書かれています。1号墳は古市地区内の祇園社境内にあったと伝えられ、埋葬施設は、長さ1.6メートル、幅45センチメートル、深さ35センチメートル、石の厚さ5センチメートルの組合式石棺であったと書かれています。昭和33年、偶然発掘され、ましたが内部には何もなかったそうです。その後、祇園社拝殿の下から、土器（須恵器）が木箱に入つて発見され吉川中学校へ長らく保管された後、吉川町教育委員会が保管することになりました。町誌の写真からは、馬具の鎧や高杯の脚部、提瓶などが写っていますが、現在は5点しかありません。



古市1号墳出土遺物実測図



（実測図は、京都花園大学考古学研究室『古墳測量調査集成Ⅰ』1998.12による）

⑫ 上中遺跡

古墳があるとの言い伝えや古墳時代の土器が散布していたため、周溝の発見のため推定地点周辺をトレーニング調査しましたが、見つかりませんでした。しかし、古墳時代の土器や石などが見つかり、古墳の可能性も考えられます。



調査の様子

⑬ 古川遺跡

調査地点北東の山上に井口備前守時重の中世山城「古川城」があり、その居館あたりの推定地と考えられ調査を行いましたが、見つかりませんでした。調査地点には、「モリサン」と呼ばれる竹やぶや、「本殿」、「七ヶ市」と呼ばれる地名も残っており、井口氏の館があった可能性は強いと思われますが、おそらく、北谷川の氾濫や近現代のかく乱により、館あたりの遺構がつぶれてしまったと考えられます



調査の様子



調査場所の全景（西より）

⑯ 古川城



中世戦国時代の武将口備前守時重が築いた城です。古川城は標高194メートルに位置する山城で、遺構として郭、土壘、堀切、土橋などが残っています。ゴルフ場の開発により西尾根区画と呼ばれる部分について発掘調査を行いました。調査の結果、自然地形を巧みに利用した防御施設がたくさん見つかりました。古川城は中世戦国時代の地方の武士の城の構造を知る上で貴重な資料となっています。

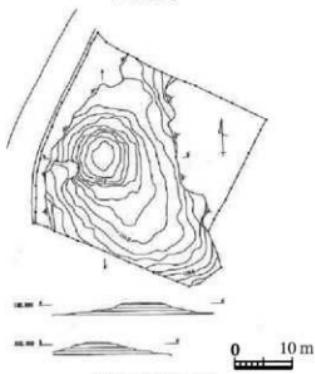
古川城跡図



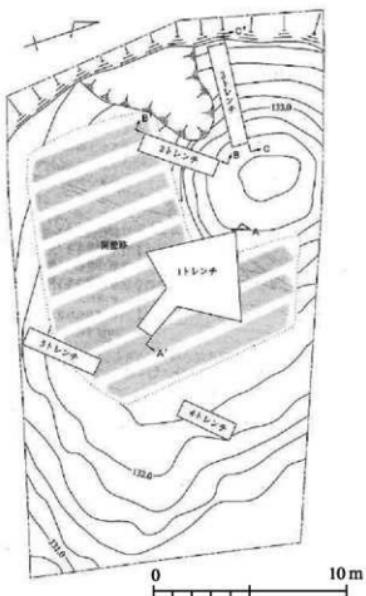
⑯ 有安古墳（2号墳）



上空より



発掘された墳丘



2号墳は、昭和41年中国自動車道の計画が発表され、その事前調査で四角い形をした方墳として考えられていました。工事計画では道路になりつぶれてしまうところを、当時の人たちによって、トンネル上に残し保存されました。

平成15年（2003年）トンネルの壁の補修工事に先立ち、発掘調査を行いました。古墳の主体部には直接工事が及ばないため、墳丘の形を知ることに重点を置き、古墳の周りにトレーンチを入れました。

その結果、畠などの耕作により過去に削られていることがわかり、形は円墳であることがわかりました。

⑯ 青龍池散布地

ゴルフ場開発に伴い分布調査を実施したところ、開発地内の青龍池の底よりたくさんの中世の土器を探集しました。炭などが土器とともに見つかりましたが、はっきりとした遺構は見つかりませんでした。調査地点は「テラヤシキ」という地名が地元の人たちで伝えられており、中世の寺のあった可能性も考えられます。



土器が見つかった地点

⑰ 田谷墳墓



調査の様子



調査トレーンチ



見つかった石

田谷地区の民間造成工事に伴い山林の分布調査を行ったところ、多くの中世の土器片が落ち葉の下から石とともに見つかりました。この地点は金の鳥が埋蔵されているという伝説もあることから、山の頂上部に位置していました。発掘調査を行ったところ、直径1.5メートルの範囲に20センチ～30センチ大の石をかぶせた穴のようなものが見つかりました。見つかった土器は亡くなった人の遺体を火葬にし、それを納めた壺でした。また何かをお供えしたと思われる皿や茶碗も見つかりました。火葬した骨を納めた壺を埋め、その上に目印として石をかぶせた墓であったことがわかりました。

お世話になりました。



編集後記

この秋、吉川町は三木市と合併します。合併後は吉川町専従の文化財担当者はなくなり、三木市で保護業務が行われることとなります。

昭和62年から文化財の専門担当者として吉川町に着任以来、(いったい何を成果として残せたのか)、本編を作成しながら、常に自問自答する毎日でした。担当者自身の力不足は当然のことながら、日頃より文化財業務、生涯学習の業務、さらに公民館の業務と、3足のわらじを履かざるを得なかつたことを思う時、他の仕事に従事しながら、文化財調査という極めて緻密な仕事を行うことがいかに困難なことであるか……。このことは心の底にしこりとなって、絶えず苦しみ続けてきました。今でも、それは担当者自身の弱さであり不器用さだと自分を責め続けております。おそらく、担当者が吉川町での“成果”を思い起こす時、自分がまがいなりにも専門であったが故、言逃れのできない批判をあびることになると思います。

今号が吉川町最後の「ふるさとよかわ」となりました。今までたくさんの方々のお力添えを得て、16号まで刊行することができました。「ふるさとよかわ」の冊子は、担当者が着任以前からあったもので、確かに2、3号くらいから現担当者が引き継いだものと記憶しています。(唯一、「ふるさとよかわ」が担当者の残せたものでしょうか。)

特に「ふるさとよかわ」を刊行するために現地調査、原稿執筆していただいた先生方には、大変なご苦労をおかけしました。本当にありがとうございました。

「ふるさとよかわ」の冊子が吉川の歴史資料として活用されることはもちろん、合併後において、今後ますます吉川町のふるさとづくり、町づくりに活用されることを祈念して担当者の最後の言葉とします。

ふるさとよかわ 第16号

2005年3月31日

吉川の遺跡 ～発掘調査の記録～

編集・発行 吉川町教育委員会生涯学習課

〒673-1114 兵庫県美嚢郡吉川町吉安246

☎ 0794-72-1577

印 刷 有限会社 アムキー
